

1. 調査報告概要表

作成日 2007年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2173300068
法人名	有限会社 Do
事業所名	ういず ゆう
所在地 (電話番号)	飛騨市神岡町東茂住242 (電 話) 0578-85-0150

評価機関名	NPO法人 ゑふ住民福祉研究会
所在地	羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年9月24日

【情報提供票より】(19 年 4 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 5.4 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000円		その他の経費(月額)	24,000円	
敷金	有(円)		(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)		有りの場合 償却の有無		有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 800円 (3食)				

(4)利用者の概要(4 月 1 日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低 79 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険飛騨市民病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岐阜県の北、富山県との県境にある旧神岡鉄道の駅の近くにあるホームである。旧社員寮の建物を借り受けてのものであるが、その十分な広さを活かして1階は地域の人々が交流する寄り合い的空間となっている。ホームの特徴は、豊かな自然と厳しい地域性を十分把握した上でのホームの活動である。ホームの一年は、「作品展」を中核とする利用者の活動で流れる。利用者の状態と能力に合わせて少しずつ作られる作品は見ごたえのあるものである。地域の人々から作品展を待ちわびる声もあるほど地域に溶け込んでいる。地域の中に利用者の暮らしがある様子が利用者の表情の穏やかさと明るさに象徴されていると思われる。もう一つは「ダメ」と言わない介護の徹底である。利用者の思いや希望、要望をしっかり受け止めることで信頼関係を築いて互いに支えあう支援につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題を全職員で話し合って改善してきた。理念はパンフレットにも記載されている。感染対策マニュアルも作成され共有されている。研修の参加については地理的なことが妨げになっているがその必要性を十分認識し、出向く努力をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に評価表を配り、意見を出してもらい全員の取り組みとして臨んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回程度開催。また、飛騨市の健康生きがい課の職員と月1回、事業所担当者会議を開催し福祉事業のあり方や今後の方針など意見交換している。普段から市町村とは連絡を取り合い相談できる良い関係である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	おこづかい帳の報告は毎月行っているがその他利用者の暮らしぶりを電話、手紙、ビデオ、写真などで伝えている。介護計画書を3ヶ月に1回報告し、家族の意見をもらうようにしている。また、ホーム内に抵抗感を和らげるような明るい色合いの意見用紙を置いたり、第三者の苦情窓口の連絡先も重要事項説明書等で伝えている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎日の散歩や行事そして利用者の作品展を通して地元の人々と交流している。時々周辺の方から花や野菜をいただいたりホームでの催しがあると畑仕事着のままでも気楽に訪問して利用者と話しをしていくなど近所づきあいそのものとなっている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の持つ力を信じ、高齢者はひとつの道を究めてきている人たちで、だからこそ神岡の皆に知ってもらいたいと「喜びに満ち、生きる力を喚起する」という独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具現化する方法として、1年がかりの作品展が中核活動として位置づけられ、日ごろ管理者が理念をホームの作品展に向けての取組みを通して伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩や行事そして利用者の作品展を通して地元の人々と交流している。時々周辺の方から花や野菜をいただいたりホームでの催しがあると畑仕事着のままでも気楽に訪問してくるなど近所づきあいそのものである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は職員全員に配布し、意見を交換する。それを1年を通して改善に向けての取組みとして話し合いを持ちながら進めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回程度開催している。報告が主となっていて意見はほとんどないがホームの活動を理解してもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	飛騨市の健康生きがい課の職員と月1回、事業所担当者会議を開催し福祉事業のあり方や今後の方針など意見交換している。また、普段から連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	おこづかい帳の報告は毎月行っているがその他に利用者の暮らしぶりをその時々で写真入りで明るい色あいのホーム便りや電話、手紙、ビデオ、写真などで伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画書を3ヶ月に1回報告し、家族の意見をもらうようにしている。また、ホーム内に意見書き込み用紙は明るい雰囲気を書くことへの抵抗感を和らげるような用紙を置いたり、第三者の苦情窓口の連絡先も重要事項説明書、口頭で伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ3年ほどはほとんど職員の異動もなく固定していて馴染みの関係が作られていて、利用者も落ち着いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎研修に4名が受講している。保育士経験者が4名いて、その経験を今、老人の介護に活かしている。辺りな地域のため外部の研修に出かける機会に恵まれていないが高山などで開かれる研修には出るようにしている。	○	長い保育士経験は介護にも通じるところもあり、活かしていると思われる。その介護をさらに高めるためにも介護の研修は積極的に受講されることを検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入している。近くのグループホームと交流している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	以前は1週間ほどの体験入所を行ったこともあるが現在は行っていない。代表と管理者が利用者と家族との面接によってすでに入居されている方たちとの関係がうまくいくかを判断している。また、入居しても、いつでも退去して良いことを利用者、家族に伝えてから入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中での食事の味付けや畑仕事の種まきの時期や植え付けなどで相談したり、アドバイスを受けたりと共に支えあう関係を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から家族同様の関係作りを目指し、失敗を馬鹿にしない、否定の言葉は使わないことを徹底している。利用者は日常生活の中で思ったことを言葉に出すことが身についており、利用者同士で、また職員とも意思疎通が十分に図られていて、利用者の意向も把握することができている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは、利用者が自分らしく暮らせるように本人・家族・職員の意見を取り入れながら計画作成担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは、利用者の状況に合わせて期間設定されており、その期間に応じた見直しが行われている。また、3ヶ月前、3ヶ月後の状況を数値化し、どんな効果があったかを家族に知らせている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が安心して暮らせるよう、多機能性を活かし利用者にあった柔軟な支援を心がけている。事業所はいつでも地域住民が立ち寄ることができる憩いの場としても活用されている。幼稚園児、小・中・高の生徒が訪問。また、中学生、高校生の1週間の宿泊も含めての職業体験を受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の中には複数の医療機関に受診し、何種類もの薬を服用している方がいたため、薬が重複したり、その把握が困難だったりした。そのため、現在は、本人、家族の同意を得て協力医療機関に往診してもらうことで適切な医療を受け利用者の状況が正確に把握できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアについては、利用者・家族・親族等全てに了解を得た上で医師、職員が協力体制を取り進めていく方針である。職員もこの方針を理解し、共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報外部に持ち越すことはなく厳重に取り扱いをしており、プライバシー保護に努めている。一方で利用者間の人間関係には壁を作り過ぎることなく、家族同様の信頼関係が築かれており、隠し事のないオープンな関係を大切にしている。言葉遣いもフランクであるが利用者を傷つけるような言葉遣いはなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方は利用者に希望を聞いて決めている。利用者一人ひとりの意思を尊重し、その日その日の利用者のペースにそってその人らしい暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意向に沿って郷土料理、山菜料理を中心に献立を立て、その日によってではあるが一緒に調理し、会話を楽しみながら食事をとっている。食材は近所の方の差し入れや利用者と共に採った山菜の事もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯を決めてしまうのではなく、その人の生活のペースや希望に合わせて入浴を楽しめるように支援している。現在、1日に2～3回入浴希望する利用者にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、花壇の手入れ、裁縫、料理などそれぞれが得意とするものを発揮できるような場面を作っている。また、それを利用者全員で楽しみ共有できるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩、ホーム外の草むしりなど、ほとんど毎日外に出かけている。一人ひとりが思い思いに戸外に出ている。利用者が職員に声を掛け職員とともに出かける。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も含め、全ての出入り口には鍵がかけられていない。利用者は自由に出入りができるが外出時には必ず職員や仲間に声をかける習慣がついており、勝手に一人で出かけることはない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年1回おこなわれており、地元の駐在所、郵便局、消防団などに利用者の連絡先なども報告し、災害時に協力してもらえる体制がとられている。災害時の緊急集合場所についても指導がなされている。	○	災害対策マニュアル、緊急マニュアルなどは大きな紙に書かれて要所要所の壁に貼られている。しかし、手にとって見ることができる書面のものを置かれることを希望したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員が普通食で同じものを食べている。食事には時々家族の方にも参加していただき意見をもらっている。また、栄養士に献立の栄養バランスの調査を依頼している。水分補給については午前午後のおやつ時、入浴後、外出後等こまめに支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自由に過ごせる広々とした居間があり大きな窓からは外の大自然が見え、室内には利用者が作った作品が飾られ楽しく気持ちよく過ごせる工夫がされている。日中は全員が居間に集まり思い思いに過ごしている。また、利用することのある人は1名ということであるが洗面所には利用者専用に戸惑いの少ない2層式洗濯機を置き、日常の生活を大事にしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳部屋にベッドや仏壇、TV、使い慣れたタンスなどが持ち込まれ、一人ひとりに居心地良い安心して生活できる居室づくりとなっている。		